

インクルーシブ研修だより

No. 1

2016. 4. 11 杉並区立杉並第四小学校 高橋 浩平

杉四小のインクルーシブ教育をどう考えるか



はじめに

「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」のビジョンのもとに

杉四小では「特別支援教育の推進」は「インクルーシブ教育システム構築を目指すこと」と捉え、インクルーシブ教育を進めていく。「一人一人の教育的ニーズに応じた教育を進める」という点において「インクルーシブ教育」と「特別支援教育」は同じ方向である。

（「特別支援教育は共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである（文部科学省）」。）

今年度はインクルーシブ教育の理解を進め、実践を積み重ねていくことに重点を置く。

（教育計画 平成28年度 杉四小学校特別支援教育（インクルーシブ教育）計画案）

今年度、杉八小、高円寺中との3校の協働した取り組みとして

①学力向上プロジェクト28

②インクルーシブプロジェクト28

があります。②では、「共生社会の実現に向け、教育を進めます。」のもと、「誰もが自分らしく幸福に生きる社会の実現を目指し、インクルーシブ教育を広げ、障害理解や教育環境のバリアフリー化を図り、より一層人権尊重の精神を身に付けさせるように取り組みを進めます。」こちらは主に障害理解に重点を置き、従来の「ふれあい集会」等を充実させる取り組みを進めていきます。

杉四小独自の取り組みとして「高円寺インクルーシブプロジェクト」で予算がつけました。「インクルーシブ教育を視野に、支援の必要な児童の教育の方法について研究し、実践する中で検証していく。特別支援教室の設置に先駆け、設置準備とスタディルームの効果的運営を進める中で、より効果的な支援を構築する。」ことを取り組み概要として出しています。今年度は、負担にならないように、無理のないようにしながら、インクルーシブ教育について理解を深め、発信をしていきたいと思います。ご意見・ご質問は遠慮なく高橋までお寄せ下さい。

杉四小のインクルーシブ教育とは

「できないことをほったらかしにしない教育」

と規定していきたいと思います。（従来の解釈ではなく独自の視点です）

したがって、発達障害がある子、何かしらの障害や遅れがある子だけでなく、学力に課題がある子、生活面での課題のある子もすべてインクルーシブ教育の対象であると捉えていきます。

「どうせ無理だから」「難しいから」「やっても無駄だから」ということがありはしないでしょうか。「なぜ無理なのか？」「なぜ難しいのか？」「なぜやっても無駄なのか？」を問いかけていきましょう。その理由をどのように改善できるか、どういう方策をとっていくことがいいのか、そのことを考えることがまさにインクルーシブ教育であると考えていきます。

○発達障害をはじめ、従来の特別支援の対象の児童については、

→校内委員会を中心に、支援の方法を考えていきます。

○学力的に課題のある児童については、

→校内研究会（三校の学力向上）の動きと連動して考えていきます。

学習支援教員による取り出し指導や、放課後の個別指導、補習、学習ボランティア等の取り組みも入ってきます。

○生活面で課題のある児童については

生活指導部の動きと連動して考えていきます。

「杉四スタンダード」の徹底を進めましょう。

「禁止」ということで指導していくのではなく、「なぜ禁止なのか」その理由をしっかりと児童に伝えて、児童にできるだけ納得させましょう。それが主体性のきっかけとなります。「指示に従う子」を育てるのではなく「考えて行動できる子」を育てていきましょう。

「できないことをほったらかしにしない教育」とは、まさに学校における当たり前の教育活動であるともいえるでしょう。特別なことではなく、当たり前のこととして杉四小のインクルーシブ教育をスタートさせたいと思います。